

# これってどう？

## 第9回 「安く」「自由度が高い」 損保ジャパンの新・海外旅行保険「off！」

このコーナーでは、金融商品やサービスをクルー独自の視点で分析し評価していきます。

FPになりたての頃、「海外旅行保険は不要な補償をはずせるバラ掛け（フリープラン）がトク」という記事を読んだ。当時は、セットプラン以外にフリープランがあることすら知らなかったの、さっそく次の旅行で試してみた。

ところが、予想していたほど保険料は安くない。その理由は、死亡と治療費用の保険金額の設定に一定の縛りがあるからだ。海外旅行保険の主契約は、「傷害死亡・後遺障害」で、これをはずすことはできない上、保険金額の設定にはさまざまな条件がつく。たとえば、「疾病治療費用」をつけるには同額以上の「傷害治療費用」をつけなくてはならず、「傷害治療費用」は「傷害死亡・後遺障害」を同額以上つけなくてはならない、などである。

治療費用を十分に得ようとする死亡補償もそれ以上つけなくてはならないため本当の意味での「フリープラン」にはならなかったのである。

### 「off！」みたいな商品が欲しかった

損保ジャパンのインターネット専用商品「off！」は、これまでの海外旅行保険に対する不満を解消してくれた。

まず、主契約を「治療費用」としているため死亡補償の着脱が自由になった。これにより治療費用補償を得るために死亡補償をつけなくてはいけないといった不自由から解消されたし、その分保険料も安くなる。

さらに補償項目ごとの保険料に「リスク細分型」を導入している点が新しい。行く先別、保険期間を1日刻みにすることで合理的な保険料を実現した。リスクを細分化することで多くのケースで従来

型よりも保険料が安くなっている。中南米・アフリカへ1ヶ月超の旅行など従来型より高くなるケースもあるが、インターネットの申し込み画面に両方の保険料を表示しているのでどちらが安いかが一目瞭然。

また、インターネットで募集から契約締結まで行うことにより事務コスト削減を実現。保険料は、死亡補償が組み込まれているセットプランで従来型に比べ最大45%、平均で33%安くなっている。

### 遅れていた保険料自由化

「インターネットの活用」と「リスク細分化」は、どちらも5年ほど前から行われていたにもかかわらず、なぜもっと早い時期に「off！」のような商品が出てこなかったのか（「off！」の発売は2002年7月）

考えられるのは「共同保険」の存在だろう。空港や旅行会社で販売する海外旅行保険の中には、複数社で引き受けをする共同保険というものがある。共同保険のマーケットに算入するには、原則として同じ料率でなくてはならない。おそらく共同保険から得る保険料収入は、損保会社

にとって安定収入になっていたに違いない。それに安住せず一歩踏み出し、最初に独自の保険料設定の商品開発を試みた損保ジャパンには拍手を送りたい。必要だと思う補償を充実させ、不要なものを「はずす」「減らす」ができる顧客本位の商品が開発されたことが重要だ。

海外旅行保険で充実させるべき補償項目は、おもに「治療費用」と「救済者費用」、「損害賠償責任」この3つは、事故が起これば経済的ダメージが大きくなる可能性が高いからだ。なかでも「治療費用」は、治療・入院費用をカバーするだけでなく、患者の移送費用なども補償する。現金の立て替え払いなし（キャッシュレス）で治療を受けることができる点もこころ強い。

海外での医療サービスは、各社専門のアシスタンス会社と提携して行っている。「off！」は新商品であるが、従来型商品を販売している頃から提携しているアシスタンス会社を使っているため実績がある。保険料が安くなってもサービスが劣ることはないので安心だ。

（クルー 深田晶恵）

保険料比較...ハワイ7日間の旅行の例（カッコ内は保険料）

セットプランの補償項目と保険金額額		従来型セットプラン	「off」のセットプラン	「off」で自由設計すると...
傷害死亡・後遺障害	2000万円	(980円)	(520円)	1000万円(260円)
治療費用	700万円	(1930円)	(1620円)	1000万円(1640円)
疾病死亡	2000万円	(900円)	(480円)	なし
賠償責任	1億円	(30円)	(10円)	1億円(10円)
携行品損害	30万円	(930円)	(550円)	20万円(490円)
救済者費用	700万円	(260円)	(130円)	1000万円(130円)
航空機寄託手荷物遅延費用	10万円	(180円)	(110円)	10万円(110円)
保険料		5210円	3420円	2640円

上記はすべて損保ジャパンの保険料